

船舶事故等調査報告書

平成24年12月20日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012神第134号
事故等種類	乗揚
発生日時	平成24年5月20日 04時45分ごろ
発生場所	徳島県徳島市今切港 <sup>いまぎれ</sup> 港口の導流堤東端付近 今切港長原導流堤灯台から真方位151°80m付近 (概位 北緯34°06.2′ 東経134°36.6′)
事故等調査の経過	平成24年9月24日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	砂利運搬船 第八進洋丸 <sup>しんよう</sup> 、496トン
船舶番号、船舶所有者等	129569、共栄海運有限会社
乗組員等に関する情報	船長、五級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	左舷側のビルジキール及びプロペラ翼が曲損
事故等の経過	本船は、船長ほか4人が乗り組み、船長が、手動操舵に就き、今切港港口の長原導流堤（北側）と小松導流堤（南側）との間の水路の中央付近に向け、約4.0ノットの速力で西進中、両導流堤の東端付近において、浅所に乗り揚げて傾斜した。 船長は、機関を後進としたところ、異音が発生したものの、傾斜がなくなったので、機関を微速力前進として離礁し、今切港内の岸壁に着岸した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 高潮時、潮高 約150cm（小松島）
その他の事項	船長は、今切港港口付近の掘下げ作業が完了しておらず、同港口に砂が溜まって水深が浅くなっていることを知っていたので、福山港において、満載で約1,500t積載できるところ、約300t減らして海砂約1,200tを積載し、喫水を船首約3.80m、船尾約4.70mとしていた。 船長は、今切港沖で時間調整のために錨泊し、今切港の高潮時に合わせて入港していた。 五管区水路通報第42号（平成23年10月28日）には、今切港港口付近の水深が減少している旨が記載されており、また、五管区水路通報第19号（平成24年5月18日）には、今切港港口付近で平成24年7月13日まで掘下げ作業（昼間）が実施されている旨が記載されており、掘下げ作業中は警戒船が配備されていた。 今切港の長原導流堤東端と小松導流堤東端の水路幅は約90mであ

	<p>り、両導流堤付近には浅所が存在することから、水路の中央を航行するよう導標（導線が真方位269.3°）が設置されていた。</p>
<p><b>分析</b></p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし なし</p> <p>本船は、今切港の港口付近を西進中、船長が港口付近の浅所に接近していることに気付かずに航行したことから、同浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>今切港港口付近には、土砂が堆積して水深が浅くなった所が存在していたものと考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、夜間、本船が、今切港の港口付近を西進中、船長が港口付近の浅所に接近していることに気付かずに航行したため、同浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
<p><b>参考</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・可航幅が狭く、浅所が存在する港口付近を航行する場合は、昼間に入港することが望ましい。</li> </ul>